



住職  
高橋寿光氏

# 「生きる」の専門家として人々の未来に寄り添う

## 宗教法人正光寺

約800年の歴史を持つ東京・岩淵の古刹、正光寺。地域最大規模の境内を持つ同寺では、仏教と寺院の持つ強みを生かし、地域住民はもちろんのこと、地域外や外国人に至るまで、世代問わず誰もが明日を生きる糧にできる各種取り組みを実施している。

正光寺は、かつて日光御成道の岩淵宿として栄えた、東京都北区岩淵町にある浄土宗の寺院だ。鎌倉時代に創建され、開山は浄土宗第三祖記主禪師良忠上人、開基は石渡民部少輔保親だといわれている。本尊は、春日仏師の作と伝わる阿弥陀如来。観音像は、行基作の頼朝公守本尊だという。

正光寺を訪れた際、特に見応えがあるのが、参道の正面に立つ約10mの岩淵世継大観音像だ。1870年(明治3)、人々が荒川の度重なる氾濫と浸水後の疫病に苦しんでいたことから、水害から逃れられるよう願いを込めて建立されたそうだ。

広い境内には、近年新しくなった本堂や観音堂等が立ち並ぶ。寺院では珍しく芝生の庭があり、ケヤキやサクラなどの樹木との調和



境内にそびえるケヤキの大樹。左奥が本堂で右奥が岩淵世継大観音

も美しい。墓地は、インターロックング舗装できれいに整備されている。これらはすべて、正光寺第29世住職となる高橋寿光氏が手がけたものだ。高橋住職は2008年(平成20)、先代住職が急逝し、30歳の若さで寺を継ぐことになった。

「当時僕は港区のお寺にいたのですが、一切の引き継ぎをされずに戻ってきて住職になりました。実はその時の正光寺は本堂がなく客殿のみの状態で、境内は非常に

荒れており、とても驚いたのです」

**寺の復興と改革に取り組み、就任3年後に本堂を再建。経営も安定化させる**

正光寺は1978年(昭和53)、火災により本堂を焼失。以降長い間、客殿を本堂としても使っている状況だったという。墓地も、墓石があちこちを向くような未整備の状態だった。現状を知った高橋住職は、寺の復興に乗り出す。

「まず困ったのは、檀家さんや役員がどなたか分からない、決算書が見当たらない。そこで、長老等から情報収集してなんとか目鼻を付けました。でも逆に、これまで檀家さんに何もできていない状況だったので、通常心情的なハードルが高くて難しい墓石の移動なども皆さん喜んで協力してくれて、スム

ーズに墓地を整備できたんです」  
2010年には、浄土宗開祖の法然上人八百年大遠忌を記念して本堂再建が決定。翌11年7月に、宮大工集団金剛組が手がけた新たな本堂と客殿が完成した。1階が鉄骨造りの客殿、2階が木造の本堂となる混構造で、エレベーターが設置され、室内は石畳とタイルで靴を脱がずに入れるという。パリアフリーへの配慮は、寺の変革を進める高橋住職の意向からだった。

さらに高橋住職は、経営安定のため、土地活用などによる収益事業の適正化も行った。  
「はるか昔、お寺が地域活動を積極的に行うことができたのは、荘園のなごりである収益事業収入があったからです。経営基盤が安定しなければ布施を布施として機能させることもできなくなってしまうのです」

**教育と福祉に注力してきた正光寺の歴史を踏襲し、仏教の教えがベースの保育園を開く**

経営が安定してきた2016年には、保育事業にも着手。寺は半公共的な存

在と認識する高橋住職が、寺の強みを生かした公益性の高い事業に取り組みべきと考えたからだ。

「それは何なのかと思つた時に、ちょうど起きたのが待機児童問題。正光寺は明治から戦後にかけて女学校を運営しており、先代の頃から教育福祉に力を入れていました。これはまさにこの寺が解決すべき課題の一つであると考えたんです」  
まずは認可を得たさいたま市浦和区に正光寺保育園「北浦和園」を開園した。そこで得た実績をもとに各地に事業所を展開。現在は東京都に3園、埼玉県に5園、神奈川県に1園の全9園を運営している。

正光寺保育園の特徴は、保育理念を「正智と和合」、保育方針を「和顔愛語」とし、仏教の教えを生かした心の保育を行っていることだ。

「心の保育とは、言い換えれば非認知能力を育む保育。主体性や相手を慮る社会性などを身に付けることです。人間にとって普遍的に大事な心を大切にしよう」ということをはるか昔から説いている



埼玉県川口市の正光寺保育園「鳩ヶ谷園」

のが仏教であり、それをそのまま生かせるのが、お寺が保育にかかわる価値だと考えています」

**寺を共に生きる場として子どもから高齢者まで各世代に価値を提供**

正光寺は、地域活動も積極的に行っている。キーワードは世代間交流。食事を楽しみながら交流する「あつまれ食堂」、清掃や各種イベントを行う「しゅりる」、音楽を通じて交流する「Wadouchi Public Piano」など、世代を超えて人々がつながり、学び、助け合い、楽しめる場所と体験を提供してきた。今後は寺本来の活動と絡めて、より積極的に体験の提供をしていく予定だ。

その一つとして注力しているのが、外国人への日本文化の発信である。今はまだ写経会のみだが、茶道・華道・書道はもちろん、日

本古来の遊びや季節の行事といった日本の文化的価値のある活動を、寺本来の活動と絡めて体験できるようにしていく。SNSでの情報発信や、予約システムの整備等DX化も進めて「3年で1万人の来訪を目指す」という。

また、新しい取り組みとしては、ウェブ上の寺院「遍照殿」「和合の墓地」「世継道」等を制作中だ。ウェブ寺院には、利用者が自己と向き合う内省の場も設けたいという。「お寺は『今どうあるか、これからどうするか』を考える、生きるための道しるべとなる場所。一生涯命生きていく過程で折に触れて寺を利用することが、リフレッシュや原点回帰につながればと考えています」

\*1 正智(しょうち)は真実を捉える知恵、和合(わごう)は親しみ合うこと  
\*2 和顔愛語(わげんあいご)とは、柔和な表情と優しい言葉使いで話すこと

住職 高橋寿光氏  
創建 鎌倉時代  
事業内容 祭祀などの公益事業、駐車場・賃貸・借地などの収益事業、保育事業  
所在地 〒115-0041 東京都北区岩淵町32-11  
TEL 03-3901-2017  
FAX 03-6369-3048  
URL <https://sk-j.or.jp/>  
取引店 リソナ銀行王子支店

法人概要